

海の観光拠点整備基本計画 プロポーザル企画提案概要

■大山や日本海の豊かな「自然資源」を活かして、ワクワクできる楽しい場を作る提案をします

取組体制：株式会社あおい総合設計と株式会社ベリーが組むことで、マーケティングの開拓とデザイン・技術力を含めて、総合力を発揮できる体制です。

同種業務： 大山参道市場
豪円湯院大山
MOUNTAIN HUT
大江の郷自然牧場
GOOD BLESS GARDEN

あおい総合設計とベリーのコラボ業務： 大山黒牛処 強小亭
キナルなんぶ
正々堂 他

整備方針： 持続性のある観光拠点とするためには十分な検討が必要です。

■先行成功事例の調査検討

⇒ex ONOMICHI U2、WEST COST AWAJI 他

■運営手法の検討

⇒施設規模の選定、運営者選定、収支計画

■将来の発展の方向性の提案

⇒地域産品の朝市、旧街道の宿場町「御来屋」の復活

導入施設の提案： 観光拠点に大山町の魅力を凝縮します。「宝石箱」のように。

■現時点での導入施設提案

- ・サイクルステーション
- ・セレクトショップ
- ・アウトドアライフインフォメーション
- ・少人数リゾートホテル
- ・地元食材の小レストラン

拠点整備の方向性： ワクワク・ドキドキの空間を統一性のある魅力的なデザインで演出します。

観光拠点の位置づけ： 海から山へ観光のはじまりとなる拠点です。

効果的に進める工夫： みんなでアイデアを出し合い、対話を重ねながら想像を膨らませます。

■委員会の意思統一

対話を重ねながら意思統一が必要

■町民からのヒアリング

眠っている観光資源を探し出すためには、町民の声が必要

海の観光拠点の整備方針等への提案について

■プロポーザル企画提案を基に、実現可能性の高い計画を作成する

1. 海の観光拠点の必要性

- ① 自然環境・産業資源・歴史資産のさらなる活用 （滞在時間延長・周遊性による増客）

→自然・産業・歴史を深く知ることが必要

- ② 体験型観光の展開 （体験・交流・滞在観光のハブ機能・住民交流の提供）

→ハブ機能の提案はできるが具体的なアクティビティの可能性と運用の検討が必要

- ③ 組織・人材育成・消費ニーズへの対応 （楽しい大山町・雇用創出・経済効果）

→具体的な内容と運用の検討が必要

2. 海の観光拠点の整備方針

- ① 周辺の取り組みとリンクする観光拠点

→周辺の取り組みを深く知ることが必要

- ② 持続可能な社会につなげる観光拠点

→SDG s の視点で持続する取り組みが必要

- ③ 町全体の活性化につながる観光拠点

→活性化する取り組みが必要

3・事業地の利用（別紙）

事業検討区域（赤枠内）： 約 5000 m²

漁港管理道（緑色部）： 利用可能 水色部に車両進入路検討 → 検討が必要

網補修作業場（黄枠程度）： 作業スペースを検討 → 検討が必要